

映像翻訳によるコンテンツのグローバル化を加速する 高速ファイル転送ソフトウェア SilverBullet for File Messenger

従来から海外のコンテンツや情報を翻訳する業務は数多く存在するが、近年はそれに加えて、日本の文化、コンテンツを海外へ発信するというニーズが高まりつつある。そうした中で、注目されるのがインジェスターが手掛ける映像翻訳事業である。国内の映像コンテンツに字幕を付けた大容量ファイルを世界各地に届けるそのワークフローの改善に、SilverBullet for File Messenger が不可欠な役割を演じている

課題

- 日本の映像作品を翻訳し海外に届ける際、HDDなどに記録し搬送すると、時間やコスト負担、セキュリティ上の不安が大きい
- 経産省が推進するJ-LOPでは現地公開後のコンテンツを回収する必要がある、転送フローがさらに増える
- 当初、関係者から勧められた米国製の高速転送製品はかなりコスト負担が大きい

検討プロセス

- 複数の高速転送製品を比べる中で、次第にSFMに惹かれるようになった
(高速転送性能、国産で技術サポートも安心、送達確認の分かり易さ、操作画面や通知表示の英語対応、価格的魅力)
- SFMのベンダ(Skeed社)にも技術者のサポート対策や世界的アワード受賞などを通じ高い信頼

導入効果

- J-LOPを含む日本から海外への翻訳業務では常用
・十数本の映像翻訳作品(合計容量10GB以上)をベトナムの海外翻訳者に転送
- 国内でも1本数GB程度の映像翻訳から、大容量かつ緊急案件についてはSFMを使用



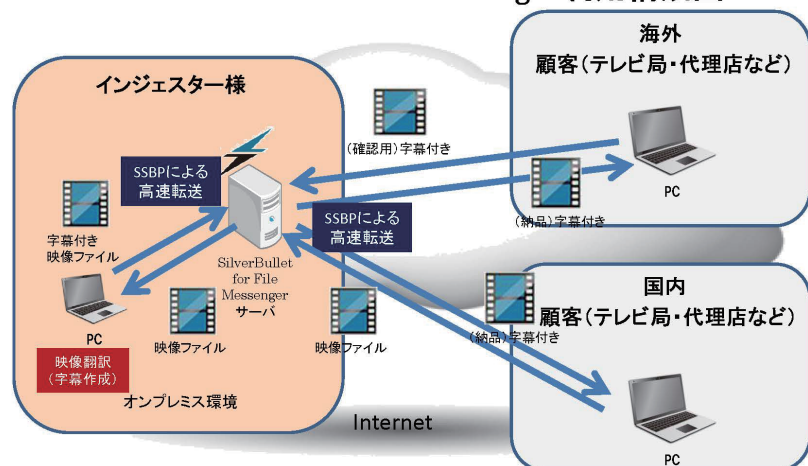
海外作品の邦訳から国内作品の海外向け翻訳へという映像翻訳の潮流から浮かび上がったコンテンツ納品の課題

韓国語で人材という意味の「インジェ」と英語で星を意味する「スター」を掛けた造語「インジェスター」を社名とする同社は、2000年前後にプロサッカーリーグ(Jリーグ)で活躍する韓国人選手など外国籍選手の通訳をしていた創業者(代表取締役 呉 希昌氏)が起業したもので、現在、翻訳・通訳サービスを中心に事業を展開している。特に近年は翻訳サービスのうち映像翻訳といわれる分野を中心に事業の拡大を図ってきた。映像翻訳とは一言でいえば映画やドラマ、テレビ番組の字幕付けなどの業務を指すが、数年前に事業を始めた頃は、海外から日本に輸入されるコンテンツ作品が主な対象であり、納品先も国内に限定されていた。しかし、最近では、日本の経産省などが進めているクールジャパン、J-POPなどの推進事業として、いわゆるJ-LOP(ジャパン・コンテンツローカライズ & プロモーション支援助成金)関連の業務が増えるとともに、日本から海外へというアウトバウンド向けの業務依頼が目立つようになった。

しかしながら、J-LOPは、助成の実績報告として現地で公開されたコンテンツファイルを改めて回収し、提出する必要があるなど、大容量の映像ファイルを海外現地に納品するだけでなく送り返さねばならない。しかも、単純にHDDなどメディアに記録し物理搬送するのでは時間もコストもかかり、セキュリティ上も不安が付きにくい。同社の映像翻訳事業を推進する執行役員 鄭 元植(ジョンウォンシク)氏は、「当初は取引先のコンテンツ提供者から米国製の高速転送製品を勧められ検討した」という。その中で、費用対効果を考える上で様々なソリューションを検討。他のUDPベースの高速転送製品とともにSilverBullet for File Messenger(以下、SFM)も検討されることとなった。

株式会社インジェスター 様

SilverBullet for File Messenger利用構成図



※SSBP=SkeedSilverBulletProtocolの略

■国産ベンダーとしての信頼性、さらに送達確認など搭載機能とコスト面で高い評価

鄭氏は複数の高速転送製品を比べる中で、次第にSFMに惹かれるようになったという。「勧められた米国製品も含めて、複数の高速転送製品を比較検討してみました。UDPベースという点において高速性に限定すればそれほど大きな差はないと感じました。ただ、SFMは国産製品ということも含め、技術者による直接のサポートを受け信頼感が増したこと、機能的にも送達確認が管理画面だけでなくメールでも通知されて分かり易い、操作画面や通知表示が英語にも対応しておりグローバルでの利用に適していること、そして価格も含めて魅力を感じました」(同)

また、Skeed社が2013年にベンチャーの登竜門といわれる世界的アワード「RedHerringTop100global」を受賞したことも好感を持って受け止められ、サポート面を含め「安心して導入できた」(同)という。

■SFMは映像翻訳に向けた作品の受取りだけでなく、翻訳後の納品手段として国内外を問わず不可欠な存在に

インジェスター社においてSFMは、J-LOPを含む日本から海外への翻訳業務において必要不可欠な存在となっている。「例えばベトナムで映画祭があった際には90分から2時間程度の作品十数本の映像翻訳の依頼があり、1本当たり1GB程度の圧縮ファイルでやりとりしました。ただ、これを現地に送る際などFTPでは不安定で送りにくく、かといってHDDの物理搬送では運賃や所要日数など大きな負担になり、紛失、盗難の可能性もあります。それを考えるとSFMは新たなコストが発生せず、極めて短時間で確実に送れるため、今では欠かせないツールです」(同)

また、海外だけでなく日本国内においてもSFMは活用されている。「先日四国のテレビ局から急ぎで番組コンテンツにスペイン語と英語の字幕を付けて送り返すという依頼案件がありました。その際はオリジナル素材が100GB以上の容量だったのですが、やはり通常の転送サービスでは送れず、物理搬送では時間を要する上に、ファイルの破損などの不安がつきまといます。しかし、SFMで先方からこちらに送ってもらうことで直ぐに翻訳に着手できました」(同)

転送時間や運送コストだけでなく、ワークフローの改善など様々な場面において、今や映像翻訳業務にSFMは欠かせないものとなっている。

INJESTAR



株式会社インジェスター
執行役員
鄭元植 (ジョンウォンシク) 氏



株式会社インジェスター

本社： 東京都千代田区五番町5-5
KDX五番町ビル4階

設立： 2002年2月27日

資本金： 4,300万円

業務内容：(翻訳・通訳に関する業務、経営コンサルタント業務、労働者派遣業、有料職業紹介業)